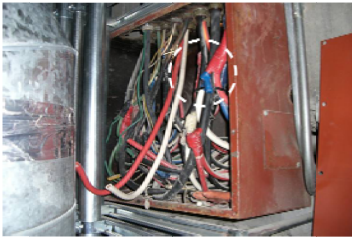
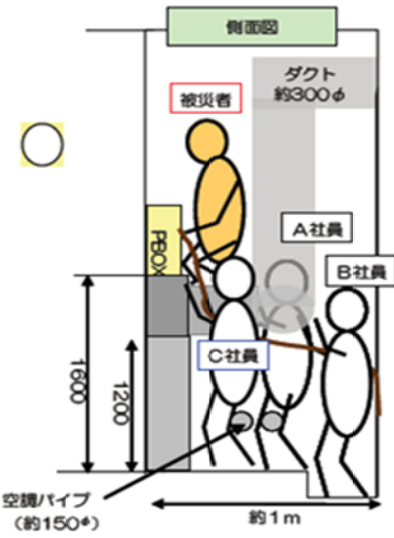
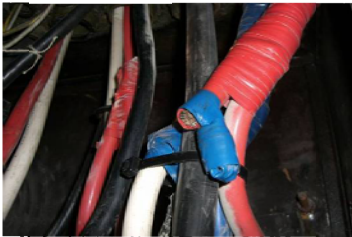


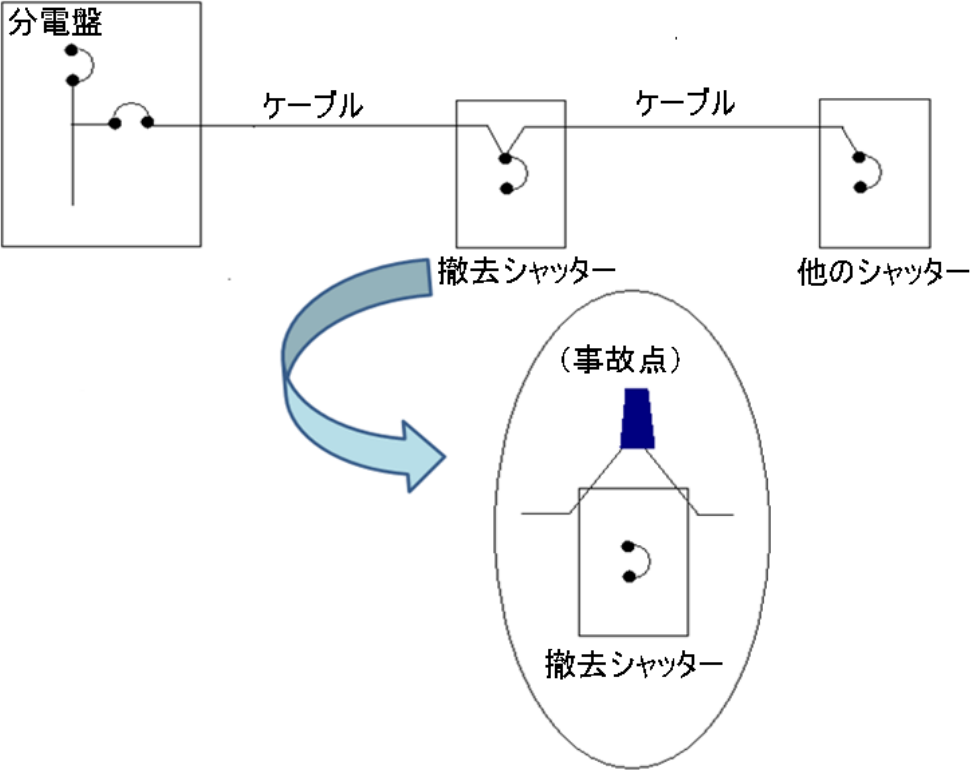
番号 1

事故種別 作業者感電死亡事故

事故発生	受電電圧 22kV 契約電力 2,200kW
事業所の概要	業種 会館・会議場 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	夏 4 時頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	プルボックス内動力電源ケーブル 使用電圧 200V
被害者の概要	作業者、男性、作業経験 19年
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ パイプスペースのプルボックス内の未使用電源ケーブル（無電圧）撤去工事を実施していたが、ケーブルが硬くて抜けなため、被害者がダクトに上がり、他の作業者ととも引き抜き用ロープをケーブルに掛け、引っ張った。</li><li>・ その際、10cm程度ずれたのでロープを元に戻す作業をしていたところ10秒程度動かなかったことから様子を見ると白目をむき泡を吹いていた。</li><li>・ プルボックス内の他の電源線（AC200V）に接触し、感電したと推定。</li><li>・ パイプスペースのため照明はなく、ヘッドランプによる作業であり室温は30℃を超えていたと思われる。</li></ul>	
	
 <p>破入（端末処理の絶縁テープが外れている）</p>	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全教育及び絶縁保護具の着用と作業環境に応じた安全確保、安全確認の実施</li><li>・ 工事計画に基づき、十分な打合せを実施。</li><li>・ 電源ケーブルの接続・撤去作業時はプルボックス内全ての電源の停電を実施。停電が出来ない場合は、端末部分の点検と絶縁器具等の取り付けを実施。</li></ul>	

番号 2

事故種別 作業者感電死亡事故

事故発生	受電電圧 6.6kV 契約電力 1,600kW
事業所の概要	業種 製造業 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	夏 15時頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	屋内配線 使用電圧 200V
被害者の概要	作業者、男性、作業経験 16年
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 電動シャッター撤去に伴う電源ケーブルの切り離し工事を実施するため、工事業者が分電盤でシャッター電源用分岐スイッチを探したが分からなかった。</li><li>・ このため、工事業者は活線で工事を行うことに変更。ケーブルの絶縁テープをはがし接続しようとして感電した。</li><li>・ 被害者は皮手袋を着用していた。</li></ul>	
	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分電盤の分岐スイッチに行き先表示を明示。</li><li>・ 活線工事の原則禁止。</li><li>・ 電気主任技術者の立会基準、工事前後の安全チェック要領の明確化。</li><li>・ 工事方法の変更は、事前に設置者に連絡することを徹底。</li></ul>	

番号 3

事故種別 作業者感電死亡事故

事故発生	受電電圧 22kV、契約電力 2,000kW
事業所の概要	業種 下水処理場、主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	秋 10時50分頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	避雷器 使用電圧 22kV
被害者の概要	作業員、男性、作業経験 10年
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別高圧電気室において定期点検を実施していた。</li><li>・ V C T 盤内に避雷器が存在していたが、避雷器は点検対象外である為、作業用の単線結線図に未記入であったことと、遮蔽板にて閉鎖されている状態であったことから、作業員全員が避雷器の存在に気づいていない状態であった。</li><li>・ 被災者は、V C T 盤にて外観点検、清掃等に取りかかろうと閉鎖されている内部の状況を理解していない状況で遮蔽板を外し、避雷器に触れ感電した。</li></ul>	
 <p>The illustration shows a worker in a blue uniform standing on a ladder. He is reaching out with his right hand to touch a lightning rod (避雷器) through a shield plate (遮蔽板). The lightning rod is connected to a stack of electrical components. A red jagged lightning bolt symbol indicates the point of contact. A callout box labeled '遮蔽板' (shield plate) points to the barrier between the worker and the lightning rod.</p>	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 単線結線図については最新の図面で確認し、点検対象外の部分も明記。</li><li>・ 充電部、停電部の明確化のためステッカー貼付、ロープによる区分を徹底。</li><li>・ 作業責任者及び区分責任者が点検対象場所を離れる際は、作業を中止するか代行者を立てて引き継ぎを行う。</li><li>・ 安全教育実施のため、図面を元にK Y活動を実施し徹底させる。</li></ul>	

番号 4

事故種別 作業者感電死亡事故

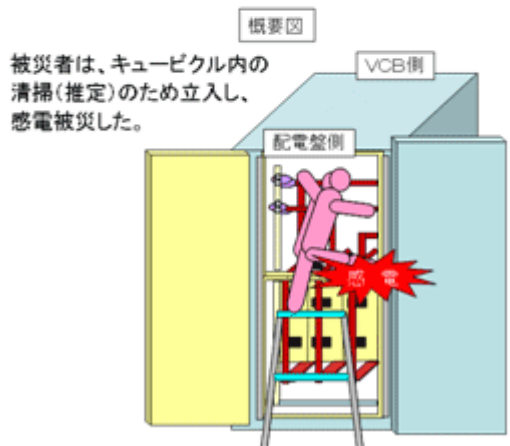
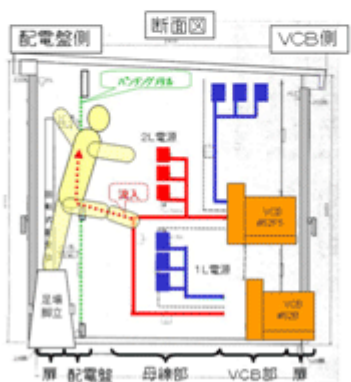
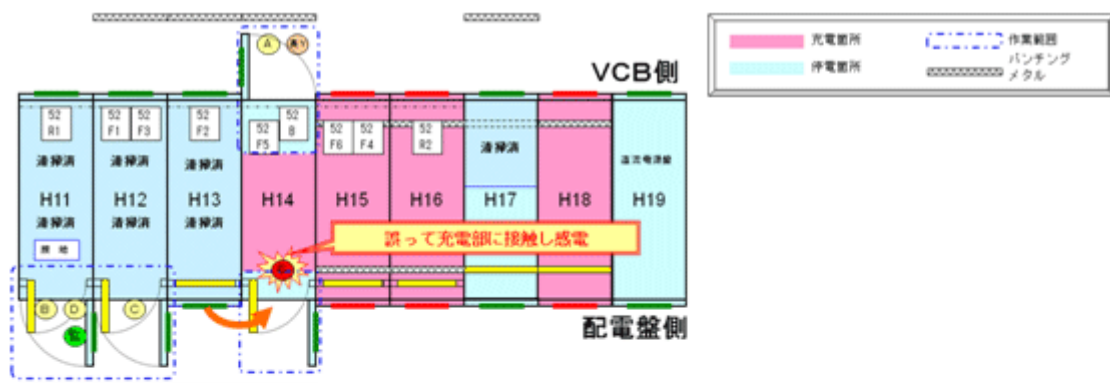
事故発生 事業所の概要	業種 一般電気事業 主任技術者選任形態 選任
----------------	---------------------------

(事故の概要)

事故発生日時 冬 13時45分頃、天候 晴れ  
事故発生電気工作物 高圧キュービクル内 6.6kV 母線  
被害者の概要 作業員、男性、作業経験 1年3ヶ月

(事故の状況)


- ・ 高圧キュービクルの点検作業の一つとして清掃作業を順次実施していた。
- ・ 被災者は充電部と停電部が混在する母線連絡盤に進入し、隔離板を取り外して充電中の6.6kV母線に接触し感電した。



- ・ 充電部分が内在する盤の隔離板を取外してはならないことを指導及び同板への「取外禁止(充電中)」等の注意喚起表示を実施。
- ・ 作業員全員が、停電範囲、作業範囲、機器の充電状態について理解するよう指導徹底。
- ・ 作業前に、検電を確実に行う。

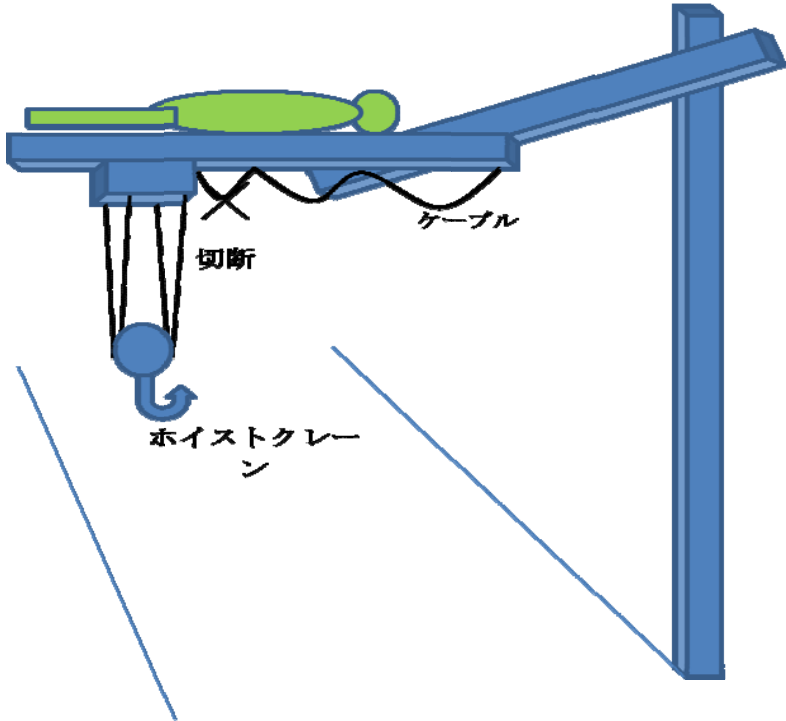
番号 5

事故種別 作業者感電負傷事故

事故発生	受電電圧 22kV、契約電力 1,200kW
事業所の概要	業種 ポンプ場 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	冬、11時45分頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	自家発給電盤 使用電圧 6.6kV
被害者の状況	作業員、男性、作業経験 27年
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 年次点検において、VCB機器単体点検（動作確認、絶縁測定等）を実施するために専用リフターにてVCBを盤外に引き出した。盤内は充電中のため施錠。</li><li>・ VCB単体点検終了後、VCB格納準備のため盤を解錠したところ、盤内底面の汚れに気づき、充電中であることを忘れ、清掃しようとして感電した。</li><li>・ なお、点検作業は2人で担当していたが、被災者が解錠した時は、もう一人は計測機器や工具の整理を行っていた。また、盤内清掃は翌日の予定であった。</li></ul>	
	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ VCB 単体点検作業の際、盤内に充電箇所が無いよう停電し、安全を確保する。</li><li>・ 盤の鍵の管理責任者を選任し、安全管理を徹底する。</li><li>・ 作業員の単独作業（行動）を禁止し、予定外の作業を行わないよう確実に指導する。</li></ul>	


番号 6

事故種別 公衆感電死亡事故

事故発生	受電電圧 6.6kV 契約電力 333kW
事業所の概要	業種 製造業 主任技術者選任形態 外部委託（保安法人）
(事故の概要)	
事故発生日時	夏 15時30分頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	ホイストクレーンの低圧ケーブル 使用電圧 200V
被害者の概要	公衆（溶接工）、男性、作業経験 8年
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 溶接作業のため、自動溶接機を操作した際に、後部にあったホイストクレーンのケーブルに当該溶接機の先端が接触しケーブルが切断した。</li><li>・ 被害者は、ケーブルの切断箇所を修理するため、動力盤のNFBを開放したが、別のNFBを開放していた。</li><li>・ そのことに気づかず、長尺梯子でホイストクレーン走行レールに登り、ケーブルを接続しようとした際に感電した。</li></ul>	
 <p>The diagram illustrates the accident scene. A blue hoist crane is shown with a blue hook and a blue cable. The cable is shown as cut, with the label '切断' (cut) and 'ケーブル' (cable). A green figure representing a worker is shown on a blue ladder, reaching towards the crane's cable. The label 'ホイストクレーン' (hoist crane) is placed below the crane. The diagram is set against a white background with blue lines representing the crane's structure.</p>	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ NFBには必ず各使用箇所の行先表示を貼付する。</li><li>・ 作業は法令、手順を遵守し適切に実施する。</li></ul>	

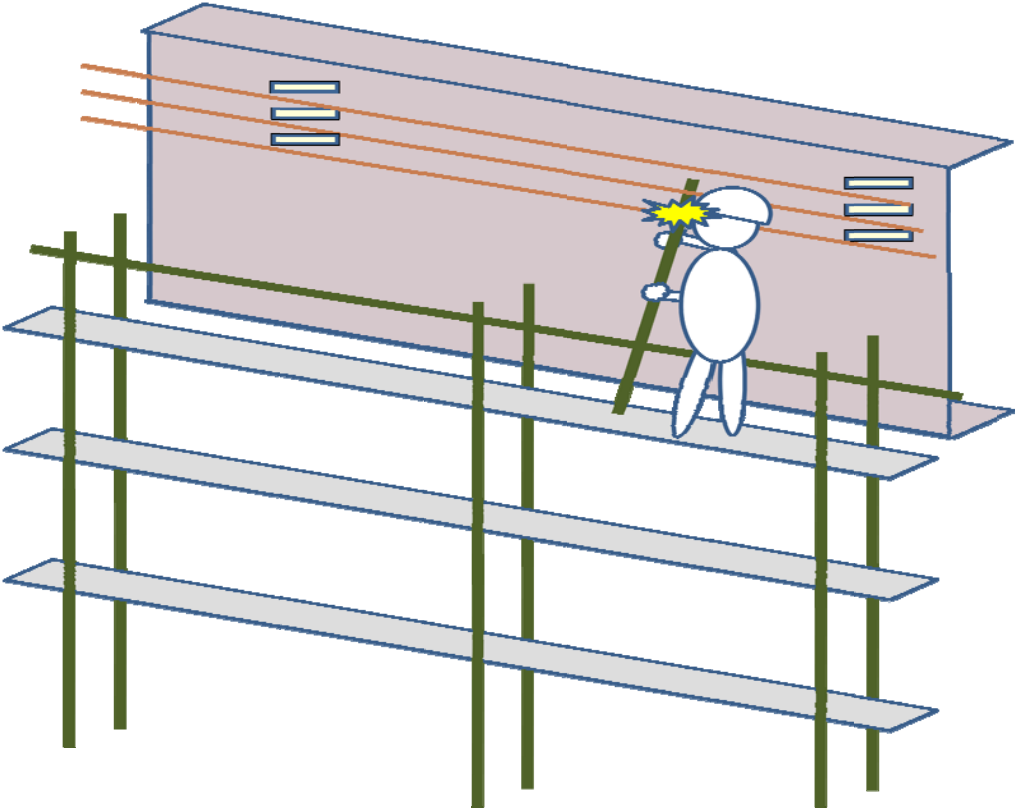
番号 7

事故種別 公衆感電負傷事故

事故発生	受電電圧 22kV 契約電力 5,100kW
事業所の概要	業種 製造業 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	夏 9時10分頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	製造設備
	使用電圧 200V
被害者の概要	公衆（修理業者）、男性
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当事業所の製造設備はターンテーブルになっているが、これを修理するため、2名の作業員がこの上に乗って作業をしていた。</li><li>・ このとき別の作業員が、別の修理目的でターンテーブルを動かすことを思いつき電源を入れたが、必要な操作が終わった後に、電源を切り忘れた。</li><li>・ ターンテーブル上の作業員は電源が入っているとの認識がなく、ターンテーブルの電源供給線であるトロリー線を握り感電した。</li></ul>	
	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 作業計画書に電源操作の責任者を明記する。</li><li>・ 予定外の作業を行う場合には、現場責任者が作業指示をする。</li><li>・ 電源スイッチの表面に電源投入禁止の表示をする。</li><li>・ 作業開始前に関係者に電気設備の配置と危険性をまとめた文書を配布する。</li><li>・ トロリー線に防護カバーを取り付ける。</li></ul>	

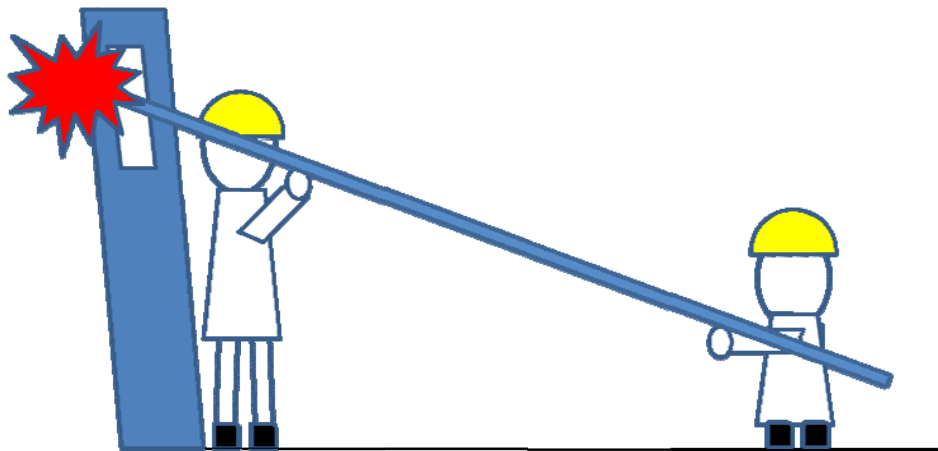
番号 8

事故種別 公衆感電負傷事故

事故発生	受電電圧 6.6kV 契約電力 850kW
事業所の概要	業種 物流事業 主任技術者選任形態 外部委託（管理技術者）
<b>(事故の概要)</b>	
事故発生日時	夏 14時 25分頃 天候 晴れ
事故発生電気工作物	クレーンガーダトロリー線 使用電圧 440V
被害者の概要	公衆（足場組立業者）、男性、作業経験 0.5年
<b>(事故の状況)</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>クレーンガーダの塗装作業のため、足場の組立て作業中、発注元が当初計画していた高さ以上で足場の組立て作業を実施していたため、作業者が足場パイプを持ち上げた際、パイプとトロリー線が接触し感電した。</li></ul>	
	
<b>(再発防止策)</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>感電の恐れのある工事は、停電して実施する。</li><li>KY ミーティングに設備管理部署が参加し安全指導を実施する。</li><li>作業中パトロールの徹底。</li></ul>	

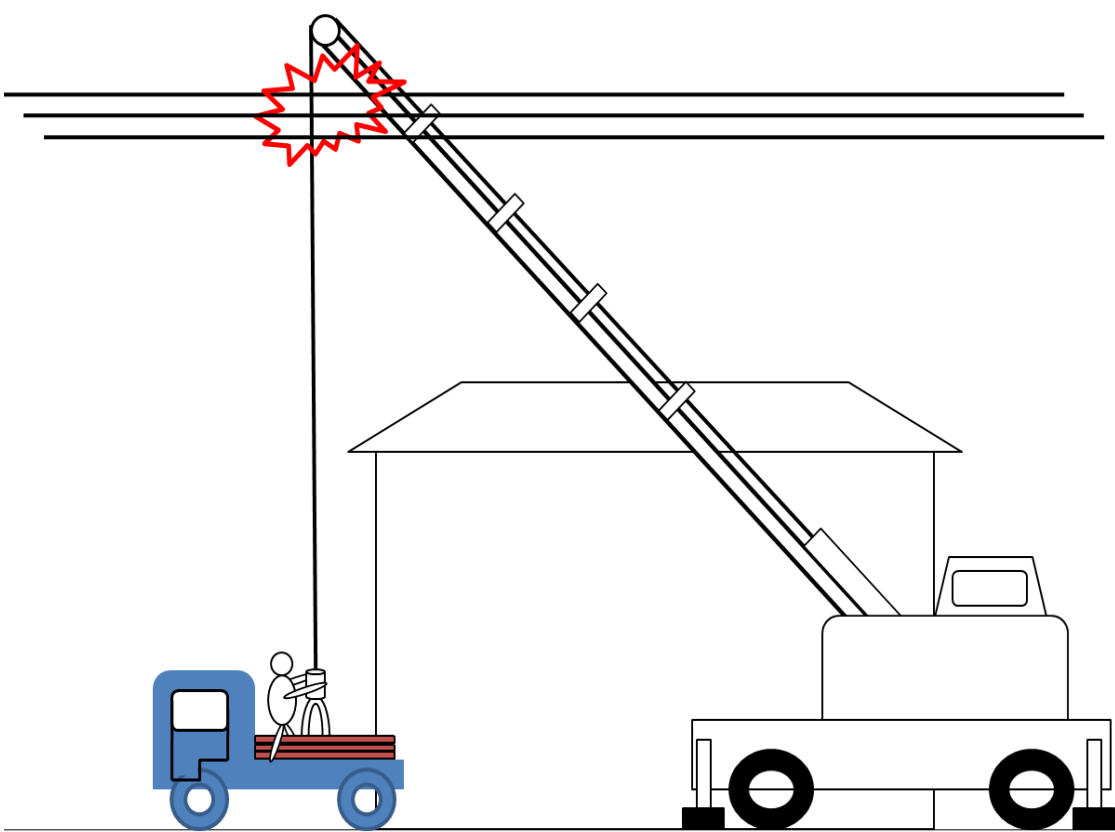
番号 9

事故種別 公衆感電負傷事故

事故発生	受電電圧 77kV 最大電力 258,000kW
事業所の概要	業種 製鉄業 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	冬 10時10分頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	特別高圧 (11kV) 銅帯 使用電圧 11kV
被害者の概要	公衆 (足場組立業者)、男性、作業経験 3年
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 老朽ケーブル更新工事において、新設ケーブルを布設する配線棚を所内母線室天井に取付けるための足場を組み立て中であった。</li><li>・ 作業床に手摺を設置するため、地上作業員から手摺用鋼管を受取り、頭越しに持替えようとした時、鋼管の先端がコンクリート壁の開口部に入ってしまう、その奥に設置されていた11kVの銅帯に近接したことにより、作業員が感電した。</li></ul>	
	
作業床	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 類似開口部 (31箇所) を養生した。</li><li>・ 電気関連工事については、事前に関係者による工事施工内容の再確認により、感電危険箇所の抽出と養生の徹底を行う。</li><li>・ 各工場及び協力会社を対象に電気室等に存在する露出充電部の具体例と感電事故防止に向けた注意喚起の教育を実施、また、感電防止指導の徹底を行った。</li></ul>	

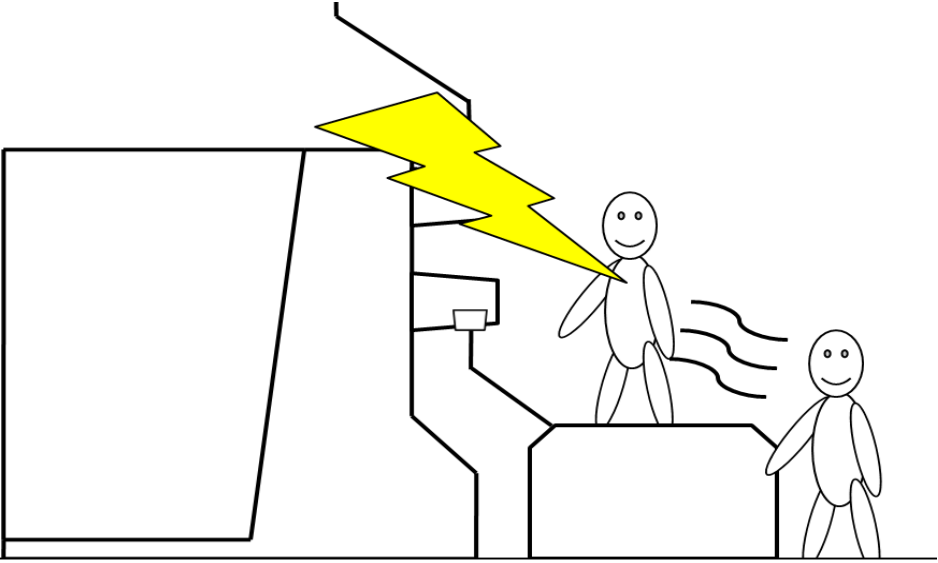
番号 10

事故種別 公衆感電負傷事故

事故発生 事業所の概要	業種 一般電気事業 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要) 事故発生日時 冬 9時5分頃 事故発生電気工作物 特別高圧配電線 使用電圧 33kV 被害者の概要 公衆（玉掛作業者）、男性	
(事故の状況) ・ 屋根改修作業に伴い、建築資材を搬送用トラックに積荷作業中、クレーンのワイヤーが電線に触れ、荷台で誘導作業中の玉掛作業者が感電した。	
 <p>The diagram illustrates the accident scenario. It shows a crane with a long boom extending upwards. A cable from the crane is shown touching a horizontal high-voltage power line. A red jagged starburst indicates the point of contact. Below the power line, a truck is parked with a worker on its bed. The crane's hook is positioned over the worker, suggesting a fall or impact. The truck is blue, and the crane is black and white.</p>	
(再発防止対策) ・ 日常巡視などにおいて発見した建築現場については、防護処置等の対策を指導するとともに、電気事故防止に関するPRを継続実施する。 ・ クレーン講習会等において、電気事故に関するPRを継続実施する。	

番号 11

事故種別 作業者感電外死傷事故

事故発生	受電電圧 77kV 契約電力 104,700kW
事業所の概要	業種 窯業 主任技術者選任形態 選任
(事故の概要)	
事故発生日時	春 13時15分頃、天候 曇り
事故発生電気工作物	負荷用配電盤 使用電圧 22kV
被害者の概要	作業者(A)、男性、作業経験 27年、死亡 作業者(B)、男性、作業経験 3ヶ月、負傷
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 配電盤内の年次点検のため、作業者3名で作業前に一次側は充電されていることなど、打合せを実施した。</li><li>・ 点検中において、ケーブルシース絶縁抵抗値が低かったため、ケーブルを点検するも原因はわからなかった。</li><li>・ 原因調査のため、作業者Aは配電盤内で、作業者Bは配電盤の前で準備に取りかかった。</li><li>・ 配電盤内一次側22kVで、原因不明の短絡事故が発生。作業中の作業者Aがアークにより火傷した。また、配電盤前にいた作業者Bも熱風で顔面に火傷した。</li></ul>	
	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 配電盤内に入れないように配電盤の全面に分割型の隔壁板を取付</li><li>・ 隔壁板に注意表示を取付</li><li>・ 配電盤内の作業を行う場合は、必ず停電作業とする。</li></ul>	

番号 12

事故種別 作業者感電外負傷事故

事故発生	受電電圧 77kV 契約電力 16,800kW
事業所の概要	業種 製造業 主任技術者選任形態 選任

(事故の概要)

事故発生日時 夏 7時15分頃、天候 晴れ

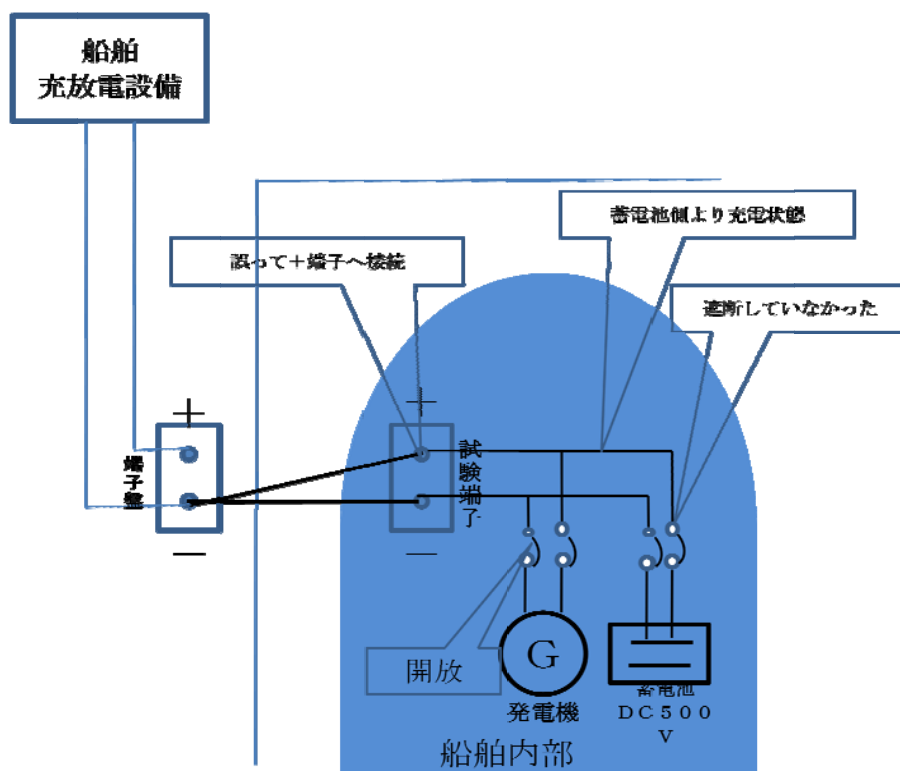
事故発生電気工作物 船舶内試験用端子台

使用電圧 DC500V

被害者の概要 作業者、男性5人、作業経験 2年～17年

(事故の状況)

- ・ 船舶内発電機による蓄電池への充電を開始した。
- ・ 充電終了後、試験準備のため船舶充電用電線を試験用端子へ接続しようとした際、短絡し、アークにより火傷した。
- ・ 蓄電池への充電作業終了後に気中遮断器が切れているものと思いこんでいたことに加え、ケーブル接続作業前の気中開閉器の「切」の確認と試験用端子台での「無電圧」の確認をしていなかった。



(再発防止対策)

- ・ 実施要領を見直し手順を明確にした。
- ・ 作業前チェックシートにより無電圧等の確認を徹底する。

番号 13 事故種別 破損事故および作業者感電外死傷事故

<p>事故発生 事業所の概要</p>	<p>業種 一般電気事業 主任技術者選任形態 選任</p>
<p>(事故の概要)</p> <p>事故発生日時 秋 11時25分頃、天候 晴れ</p> <p>事故発生電気工作物 鉄塔</p> <p>被害者の概要 作業員、男性4名（2名死亡、2名負傷）</p>	
<p>(事故の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄塔の建替工事に伴う送電線の取外し工事を実施していたところ、鉄塔の地上45m付近部分が折損し、鉄塔上で作業を行っていた作業員4名が墜落した。</li> <li>事故後、工事中に一部の鉄塔部材の強度が不足していたこと、事前に強度計算を行っていなかったことが確認された。</li> </ul>	
<p>(再発防止対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工事中の鉄塔強度を必ず計算するよう社内規則を改正する。</li> <li>工事設計審査に関する実施方法を詳細に決め社内規則を改正する。</li> <li>工事会社との間で潜在的なリスクに関する意思疎通を充実する。</li> <li>工事全般にわたる潜在的リスクを改めて抽出、再評価し、改善活動を継続的に実施する。</li> <li>送電工事設計者の技術力のさらなる向上を図る。</li> </ul>	

番号 14 事故種別 社会的に影響を及ぼした事故

事故発生	受電電圧 22kV 契約電力 11,000kW
事業所の概要	業種 テナントビル 主任技術者選任形態 選任

(事故の概要)

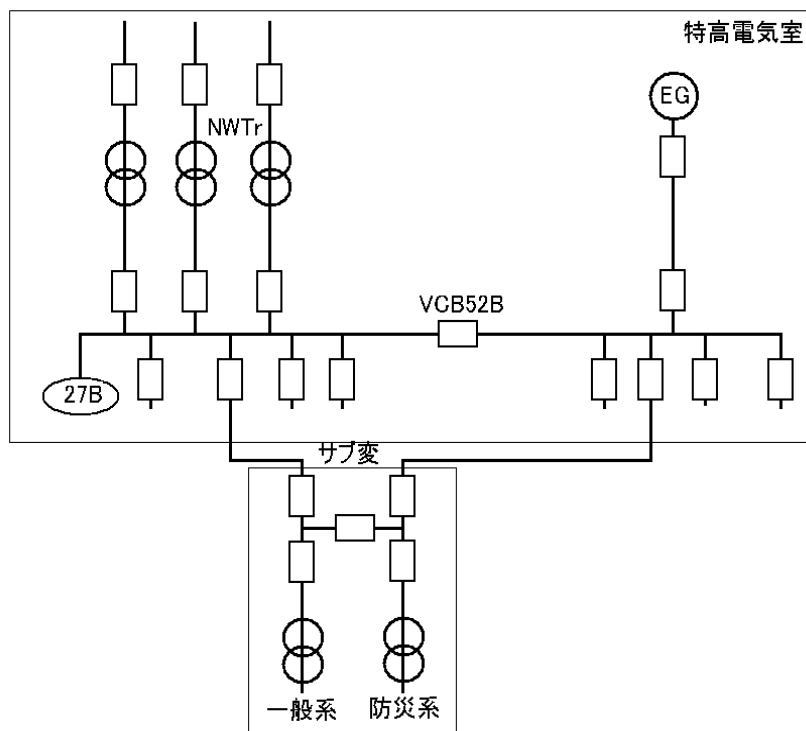
事故発生日時 春 16時00分頃、天候 晴

事故発生電気工作物 サブ電気室受電用VCB

被害の概要 全館停電

(事故の状況)

- ・ 特高受変電設備の改修工事のため、通常は自動起動する非常用予備発電装置を手動起動に切り替え、通常は閉路している特高電気室母線連絡遮断器VCB52Bを開放していた。
- ・ この状態でテナントエリアにおいて、誤って「排煙ボタン」が押されたことにより「防災動力作動信号」が発信したため、非常用予備発電装置起動ロジック（防災動力作動信号+特高電気室母線連絡遮断器VCB52B開放）が成立し、サブ電気室の受電用VCBが一斉に開放されたが、非常用予備発電装置が手動モードのため起動せず、全館停電が発生した。
- ・ 保安担当者は、常用電源の送電が停止した場合に非常用予備発電装置が起動することは認識していたが、常用電源の送電が停止しなくても、防災動力作動信号と特高電気室母線連絡遮断器VCB52B開放のアンド条件で、非常用予備発電装置起動ロジックが成立することは把握していなかった。



**(再発防止対策)**

- ・ 工事再開にあたっては、非常用予備発電装置起動ロジックの発信の条件を常用電源の送電停止（母線電圧低下）のみとする。
- ・ シーケンスの再確認を行い、必要があれば修正した上で保安教育を実施する。
- ・ 工事の実施にあたっては、事前の打ち合わせを徹底し、工事中の異常時対応について訓練を行う。

番号 15

事故種別 波及事故

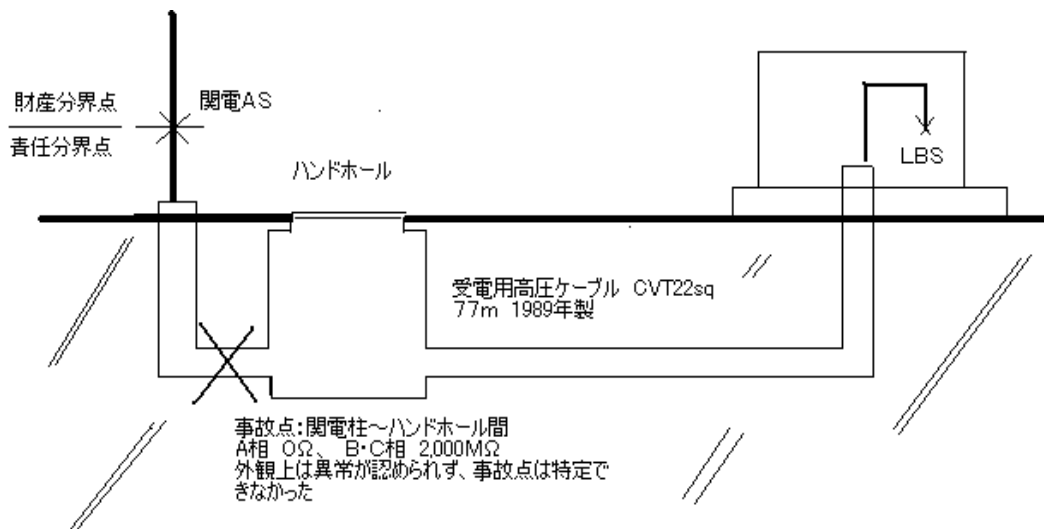
事故発生 事業所の概要	受電電圧 6.6kV 契約電力 61kW 業種 テナントビル 主任技術者選任形態 外部委託（管理技術者）
----------------	---

(事故の概要)

事故発生日時 春 20時25分頃、天候 晴れ  
事故発生電気工作物 高圧引込（CVT）ケーブル（出迎え）  
使用電圧 6.6kV  
供給支障電力及び時間 600kW、36分  
事故原因 保守不完全

(事故の状況)

- ・ 高圧引込ケーブル（1989年製）が経年劣化のため絶縁不良となり地絡した。
- ・ 地絡が生じた高圧引込ケーブルは出迎え方式(ケーブル77m、地中埋設)であり、地絡継電器の保護範囲外であったため波及事故に至った。
- ・ 現在の管理技術者が5年前に受託して以降、設置者が停電を伴う年次点検を実施しておらず、またそれ以前の点検状況も把握していなかった。



(再発防止対策)

- ・ 保安規程に基づく周期で定期・精密点検を確実に実施し、経年劣化を把握して不適合箇所を改修する。
- ・ 現有する設備の経過年数を把握し、更新計画の検討を行い、主任技術者の助言に基づき優先度の高いものから改修する。

番号 16

事故種別 波及事故

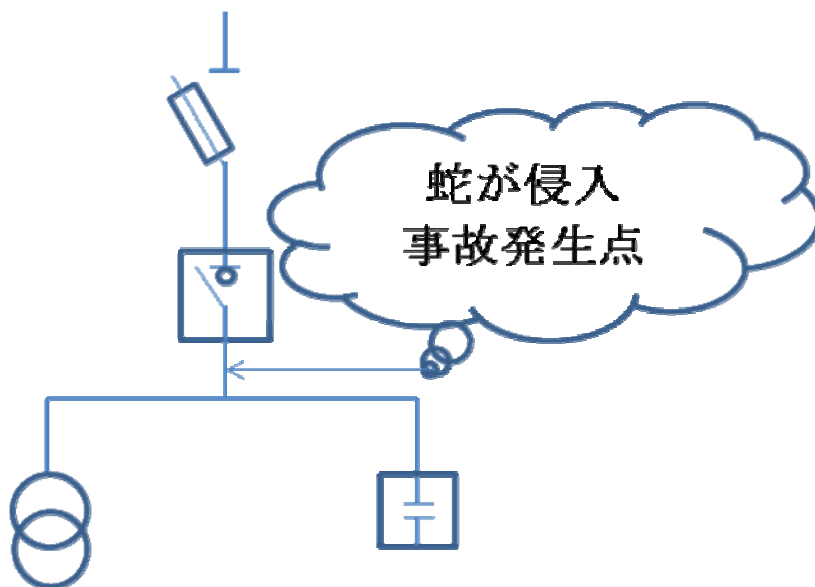
事故発生	受電電圧 6.6kV 契約電力 363kW
事業所の概要	業種 ゴルフ場 主任技術者選任形態 外部委託（保安法人）

(事故の概要)

事故発生日時 春 17時50分頃、天候 晴れ  
事故発生電気工作物 高圧母線支持物（ガイシ）  
使用電圧 6.6kV  
供給支障電力及び時間 1,175kW、1時間28分  
事故原因 鳥獣接触及び高圧地絡方向継電器の動作不良

(事故の状況)

- ・ キュービクル基礎部隙間より蛇が侵入し、高圧母線支持物の上部充電部に接触し地絡事故が発生した。
- ・ 高圧地絡方向継電器が不動作のため（経年24年）波及した。

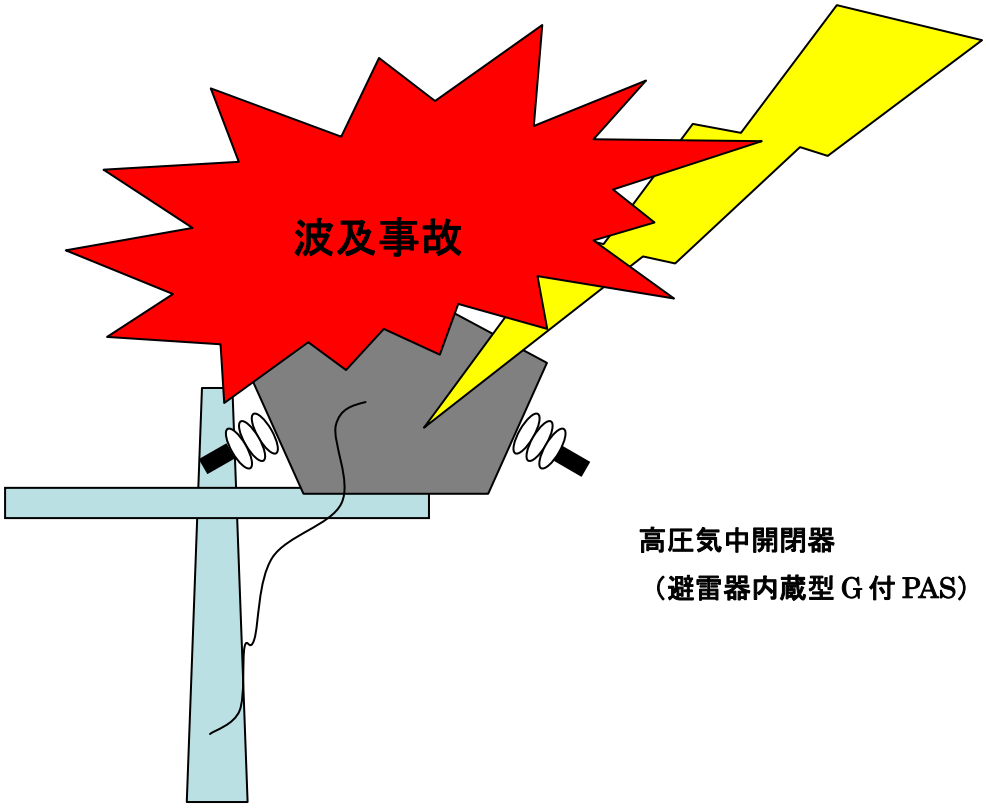


(再発防止対策)

- ・ 小動物侵入防止対策を実施。
- ・ 更新推奨時期を過ぎている機器については順次更新を実施。

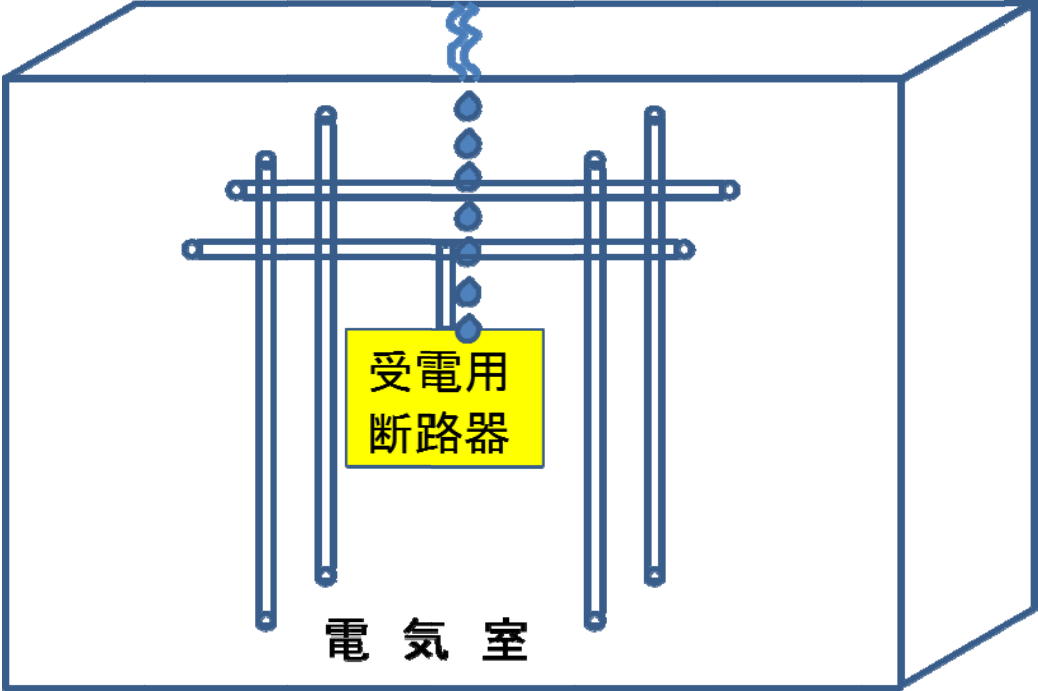
番号 17

事故種別 波及事故

事故発生	受電電圧 6.6kV 契約電力 415kW
事業所の概要	業種 酒造業 主任技術者選任形態 外部委託（保安法人）
(事故の概要)	
事故発生日時	秋 5時30分頃 天候 雷雨
事故発生電気工作物	高圧気中開閉器
	使用電圧 6.6kV
供給支障電力及び時間	1,872kW、3時間4分
原因	自然現象（雷）
(事故の状況)	
・構内第1柱上の高圧気中開閉器に雷が直撃したことから、高圧気中開閉器が損壊し波及事故に至った。	
	
高圧気中開閉器 (避雷器内蔵型 G 付 PAS)	

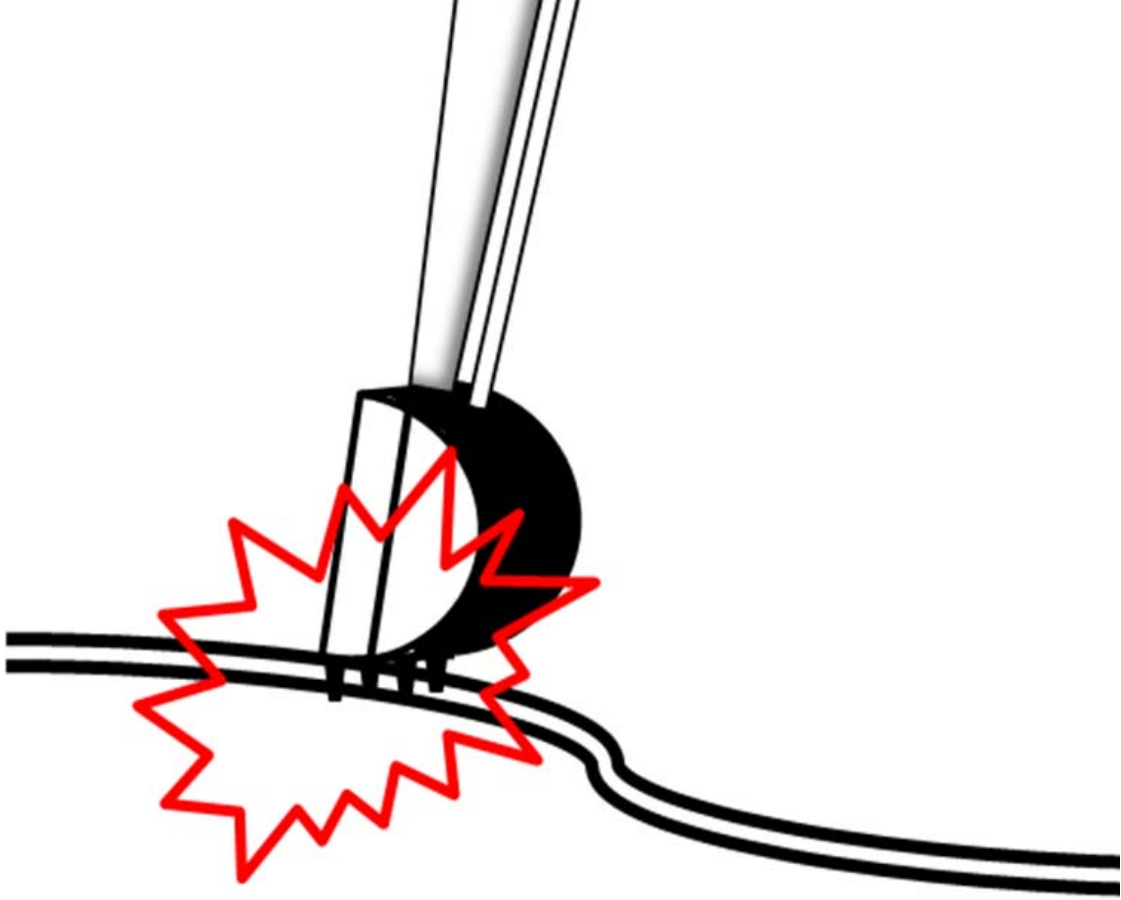
番号 18

事故種別 波及事故

事故発生	受電電圧 6.6kV 受電電力 355kW
事業所の概要	業種 販売業 主任技術者選任形態 外部委託（保安法人）
(事故の概要)	
事故発生日時	夏 0時50分頃、天候 雨
事故発生電気工作物	受電用断路器
	使用電圧 6.6kV
供給支障電力及び時間	829kW、2時間
事故原因	自然現象（風雨）
(事故の状況)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 電気室改修（キュービクルに変更）のため、電気室天井（屋上）の補強工事を行っていた。</li><li>・ 屋上にシートを貼り防水対策を実施していたが、コンクリートの継ぎ目より雨水が浸入し電気室内の受電用断路器電源側にて地絡し、波及した。</li></ul>	
<b>コンクリートの継ぎ目</b>	
	
(再発防止対策)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 受電用断路器を取替。</li><li>・ 屋上の防水工事を実施した。</li></ul>	

番号 19

事故種別 波及事故

事故発生	受電電圧 6.6kV 契約電力 61kW
事業所の概要	業種 保育園 主任技術者選任形態 外部委託（保安法人）
<b>(事故の概要)</b>	
事故発生日時	秋 13時20分頃、天候 晴れ
事故発生電気工作物	受電用高圧ケーブル（地中・出迎え） 使用電圧 6.6kV
供給支障電力及び時間	1,477kW、19分
事故原因	公衆の故意・過失
<b>(事故の状況)</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 建屋改築工事中に掘削機（ショベルカー）が、誤って地中埋設の高圧ケーブルを損傷させ地絡した。</li><li>・ 地絡継電器の保護範囲外であったため波及に至った。</li></ul>	
	
<b>(再発防止対策)</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 電気設備に関わらず、改築工事のある際は点検担当者へ速やかに連絡。</li><li>・ 工事内容に変更、追加等が生じた場合も速やかに連絡する。</li></ul>	

番号 20

事故種別 波及事故

事故発生 事業所の概要	受電電圧 6.6kV 契約電力 426kW 業種 ゴルフ場 主任技術者選任形態 外部委託（管理技術者）
----------------	--

(事故の概要)

事故発生日時 冬 21時10分頃、天候 雪

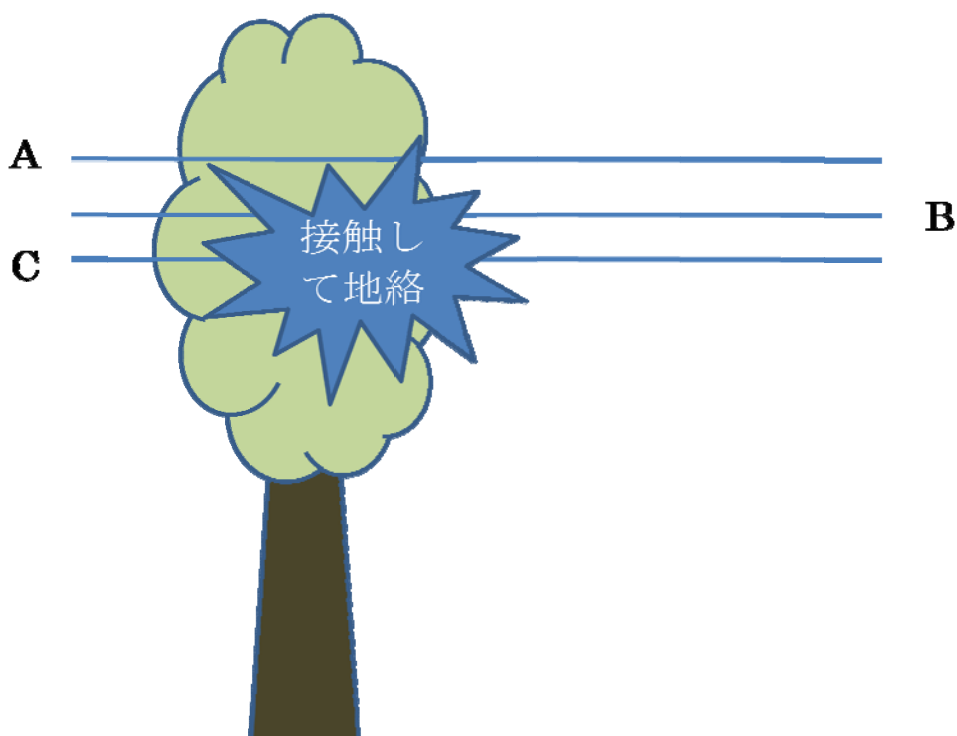
事故発生電気工作物 構内高圧架空電線路  
使用電圧 6.6kV

供給支障電力及び時間 132kW、52分

事故原因 保守不備

(事故の状況)

- ・ 構内架空電線路から柱上トランスへの接続箇所の絶縁カバーがA・C相で欠落しており、電線の裸部分が一部露出していたため、当日の雪で曲がった樹木がこれに接触し地絡事故が発生した。
- ・ 地絡継電器は動作したが、PAS不動作（経年18年）のため波及した。



(再発防止対策)

- ・ 台風や豪雪時には特別巡視を実施。
- ・ 樹木近接部の巡視の徹底。
- ・ 更新推奨時期を過ぎている機器については、順次更新を実施。